2023年度
第19回お墓ディレクター検定試験
１級試験問題

注意事項

①試験開始のアナウンスがあるまで問題用紙は開かないでください。
②試験時間は 45 分です。途中退席は認められておりません。体調不良などにより途中退席をする場合は各試験教室の試験監督官に申し出てください。
③机の上には、受検票、腕時計、鉛筆･シャープペンシル（ＨＢ～２Ｂ）とプラスティック製の消しゴム及び鉛筆削り以外のものは置いてはいけません。
④携帯電話・スマートウォッチを含む一切の無線通信機器の試験教室内での使用を禁止します。必ず電源を切り、カバン等にしまってください。
⑤解答は解答用紙に記入してください。また、マークシート方式ですので、記入の際は注意事項をよく読み、正しく記入してください。
⑥試験時間中の私語は固く禁止します。
⑦終了時刻がきたら、鉛筆を置いて解答作業を中止してください。また、係員が回収にくるまで離席は認めません。
⑧試験問題、合否、採点結果に関する質問は一切受け付けいたしません。
⑨試験監督官又は係員の指示に従わない者及び不正行為を行なった者に対しては、退室させることがあります。
⑩試験問題は各自お持ち帰りください。

正誤判定30題

◎次の各文が正しい場合には正の箇所を、誤っている場合には誤の箇所を、それぞれマークしなさい。

1. 弥生時代における支石墓や甕棺などは東日本を代表する葬制ですが、西日本では、壺を用いた再葬がよく知られる葬制です。そして、これは旧石器時代以来の伝統的葬制といえるものである、というのは正しいでしょうか。
2. 古代中国で生まれた「宗廟」では「魂」を祀り、「墳墓」では「魄」を祀りますが、「宗廟」にお骨は埋葬されず、その代わり「魂」が宿るためのシンボルとしての霊魂の「依り代」である木でつくった「神主」（＝木主）を祀ります。これが後に日本へ伝えられた位牌である、というのは正しいでしょうか。
3. 中国の十王信仰では死後四十九日を司る裁判官役の王が7人います。この中で6人までは中国の道教の王ですが、最後の七七日（四十九日）を司る閻魔大王だけがただ一人インド生まれである、というのは正しいでしょうか。
4. 十三仏信仰において、一周忌の本地仏は薬師如来、三回忌の本地仏は観音菩薩である、というのは正しいでしょうか。
5. 中国で初めて仏教の盂蘭盆会をしたのは538年、日本では約70年遅れた606年に行なわれた記録があります。また560年頃にできたという中国の『荊楚歳時記』という民俗誌の本には、お盆行事の様子が記録されています。では、この本の中で、当時は仏教の僧尼と道教の道士と大勢の民衆が集まって賑やかにお祭りをしていたことが記録されている、というのは正しいでしょうか。
6. お彼岸の中日と、沈む太陽に向かって「西方浄土」を思い浮かべる「日想観」とを結びつけたのは中国浄土教の善導である、というのは正しいでしょうか。
7. 源信と共に活躍した慶滋保胤が撰した『日本往生極楽記』は「聖徳太子伝」から始まり、次に「行基伝」があります。彼によって聖徳太子と行基の2人は、日本で初めて「極楽往生した人」と位置づけられている、というのは正しいでしょうか。
8. 相撲における土俵のやぐら四隅の房の色は「黒（玄武＝北）」「青（青龍＝東）」「赤（朱雀＝南）」「白（白虎＝西）」で、これは四神思想から来ているものです。では、有名な国宝の「高松塚古墳」や「キトラ古墳」の壁画から発見された四方守護の神獣も四神思想と同じ由来を持つものである、というのは正しいでしょうか。
9. 行基の三昧聖集団は積極的に庶民の「死」と「火葬」にかかわったとされています。では、この三昧聖にある「三昧」とは墓地という意味合いで使われていた、というのは正しいでしょうか。
10. 空也上人は全国各地を遊行し市井の中で念仏を広めました。彼の記録を見ると、「荒れた野原に遺骨があると集めて油をかけて荼毘に付し、南無阿弥陀仏と念仏を称えて供養した」とあります。では、この記録は『空也誄』に書かれている、というのは正しいでしょうか。
11. 『五輪九字明秘密釈』の五輪塔図において、金剛界大日如来と胎蔵界大日如来が、それぞれ三摩地している姿が描かれていますが、火輪の印契（金剛界の大日）は定印を示し、水輪の印契（胎蔵界の大日）は智拳印を示している、というのは正しいでしょうか。

12. 源信の創意といわれる「阿弥陀二十五菩薩来迎図」は、来迎する（死者をお迎えする）二十五菩薩のうち、先導役が観音菩薩と勢至菩薩で、特に観音菩薩の両手には宝珠があり、ここに死者を乗せて極楽往生させることを示している、というのは正しいでしょうか。

13. 重源の舎利信仰・舎利塔信仰は多くの石塔や舎利塔の建立に寄与し、「日本人のお墓」という点からみると、根底の一部といえます。では、この舎利信仰・舎利塔信仰は本来、「仏舎利信仰」に基づいている、というのは正しいでしょうか。

14. 密教の大日如来の種子を「キャ」といい、阿弥陀如来の種子を「アン」という、というのは正しいでしょうか。

15. お釈迦様が亡くなられた後、その遺骨である「仏舎利」は遺言どおり、８人の王によって分骨され、８つの「ストゥーパ」が造られた（舎利八塔）、と『仏説長阿含経』にあります。この「ストゥーパ」を中国語に音写したのが「卒塔婆」で、現在でも日本でそのまま用いています。では、このお釈迦様が涅槃に入る（亡くなられる）直前に弟子たちに遺言を残したことが書かれている経典は『法華経』である、というのは正しいでしょうか。

16. アメリカ合衆国では各州ごとに「墓地法」が異なり、地域で葬送文化に違いが見られます。では、アメリカ東海岸は、宗教的な制約も少なく自由な風土で、アジア系移民も多く、全米の中でも火葬率が高い地域といわれている、というのは正しいでしょうか。

17. 墓地、納骨堂または火葬場の管理者は、埋葬、埋蔵、収蔵または火葬の求めを受けたときは、正当な理由がなければ、これを拒んではならない、というのは正しいでしょうか。

18. 埋葬または火葬は、他の法令に別段の定めがある場合を除き、死亡または死産後 24 時間を経過した後でなければ、これを行なってはなりません（妊娠７箇月に満たない死産のときは、この限りではない）。なお、死体の埋葬または火葬を行なう者がないとき、または判明しないときは、死亡地の市町村長が、これを行なわなければならない、というのは正しいでしょうか。

19. 墳墓や墓地の使用権は祭祀財産に含まれ、祭祀主宰者がこれを承継することとなります。では、仏壇や位牌、神棚、系譜（家系図）も祭祀財産に含まれる、というのは正しいでしょうか。

20. 祭祀主宰者となる者の資格には限定はありません。姓が異なっても、また男性・女性の区別なく、祭祀主宰者となることができます。では、この祭祀主宰者は１人であることが原則だと解されていますが、２ヵ所の墓地を別々に承継するなど、特別の事情がある場合には、複数の祭祀主宰者を認めた判例もある、というのは正しいでしょうか。

21. 変死者（不自然な死をとげ、死因の不明な者をさす）を、検視を経ないまま、埋葬してしまった場合、５万円以下の罰金または科料に処される、というのは正しいでしょうか。

22. 浮金石は黒色の中に金粉が浮いて見える特徴と共に、きめ細かく堅牢な石質でありながら、加工性が良いという特徴もあわせ持っています。では、この浮金石は福島県で採掘されている花崗岩である、というのは正しいでしょうか。

23. 変成岩とは、変成作用によってできた岩石で、地下のかなり深いところで変化を受けて生成した岩石です。では、この変成岩には安山岩や玄武岩などが含まれる、というのは正しいでしょうか。

24. 墓石の解体・撤去時に出る石材関連も産業廃棄物として扱われます。石材店は産業廃棄物の処理を業者へ委託する場合、許可業者に委託することはもちろん、産業廃棄物の収集運搬・処分を委託する度に管理票（マニフェスト）を交付する義務があると共に、この管理票（マニフェスト）を3年間保存しておくことも義務づけられている、というのは正しいでしょうか。
25. 納骨堂の経営資格についても墓地と同様に、民間の場合は宗教法人に代表される公益法人に限られています。では、墓地、埋葬等に関する法律（以下、墓埋法という）において、納骨堂とは他人の委託を受けて焼骨を収蔵するために、納骨堂として都道府県知事（市長または区長）の許可を受けた施設のことをいう、というのは正しいでしょうか。
26. 銘（めい）のある（建塔年などが刻字されている）石造五輪塔で最も古いものは大分県臼杵市にある1169年のものである、というのは正しいでしょうか。
27. ビシャンには「鬼ビシャン」から「八枚ビシャン」「百枚ビシャン」があり、目の細かいものから順に荒いものをかけて石面を平らにする、というのは正しいでしょうか。
28. 一般的に直径72インチ以上の切削機を大口径と呼びますが、72インチとは約1.8メートルのことである、というのは正しいでしょうか。
29. 大入（おおい）れは通常、墓誌の高さの5%といわれていますが、記念碑の場合、大入れは高さの10%といわれている、というのは正しいでしょうか。
30. 石材に見られるサビ色変色には、周囲の鉄柵などから付着した「もらいサビ」と呼ばれるものと、もともと石材が鉱物として含有している酸化鉄などが何らかの原因で「サビ」として噴出したものとに分けられる、というのは正しいでしょうか。

多肢選択20題

◎次の各文の（　　）に入る語を①～④の中から選び、その番号の箇所をマークしなさい。

31.「先祖を祭祀すると、先祖は祭祀をした子孫に福禄寿を授ける」という信仰に近い考え方が日本にも受け継がれ、日本独自の先祖祭祀にも影響を与えました。この言葉は中国の古典（『　　』）に出ています。
①詩経（しきょう）　②荊楚歳時記（けいそさいじき）　③礼記（らいき）　④一切経音義（いっさいきょうおんぎ）

32. 釈迦三尊とは（　　）のことをいいます。
①釈迦如来、普賢菩薩、地蔵菩薩
②釈迦如来、地蔵菩薩、弥勒菩薩
③釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩
④釈迦如来、文殊菩薩、弥勒菩薩

33. 野見宿禰（のみのすくね）を始祖とする土師（はじ）氏は、皇族の死にともなって、近習者を殉死（じゅんし）として陵墓（りょうぼ）へ生き埋めにする習慣を改め、（　　）に変える提言をすることで天皇をよろこばせ、以後それが習慣となりました。
①石仏　②埴輪　③漆器　④花

34. 重源（ちょうげん）の東大寺復興事業では、伊行末を代表する中国・宋の「石大工」の活躍がありますが、その中でも重要なことは、それまでほとんど凝灰岩など軟石での加工が主流であったのに対して、宋人石匠（そうじんせきしょう）たちの活躍によって、硬石の（　　）を加工する技術が日本にもたらされて定着していったことです。
①安山岩　②花崗岩　③玄武岩　④閃緑岩

35.「種子」は「種字」とも書き、「しゅじ」と読みならわしていますが、これは「梵字（ぼんじ）」と呼ばれる古代インドのサンスクリット語で、（　　）とも呼ばれています。
①お題目（だいもく）　②薬研（やげん）文字　③悉曇（しったん）文字　④円相（えんそう）

36. 墓埋法は「墓地、納骨堂または火葬場の管理及び埋葬等が、（　　）、支障なく行なわれること」を目的としています。
①国民の文化的感情に適合し、かつ環境衛生その他社会の福祉の見地から
②国民の宗教的感情に適合し、かつ環境衛生その他公共の福利の見地から
③国民の宗教的感情に適合し、かつ公衆衛生その他公共の福祉の見地から
④国民の文化的感情に適合し、かつ公衆衛生その他社会の福利の見地から

37. 羽黒青糠目石は（　　）です。
①福島県で採掘されている閃緑岩
②茨城県で採掘されている花崗岩
③神奈川県で採掘されている安山岩
④愛知県で採掘されている斑れい岩

38. 次の写真は（　　）を使って六寸勾配（45 度の勾配）に切り下げているものです。

①のみ　②ビシャン　③両刃　④コヤスケ

39. 硬石を手仕事で加工する場合、（　　）という工程順序になります。
①原石→墨かけ→荒切り→ビシャンかけ→のみ切り→小叩き
②原石→墨かけ→荒切り→のみ切り→ビシャンかけ→小叩き
③原石→墨かけ→荒切り→のみ切り→小叩き→ビシャンかけ
④原石→墨かけ→荒切り→小叩き→のみ切り→ビシャンかけ

40. 次の家紋は（　　）といいます。

①三つ柏　②三つ足橘　③三つ梶の葉　④三つ茶の実

◎次の文章の空欄に入る語を下の①～④の中から選び、その番号の箇所をマークしなさい。

「お盆」は仏教最大の国民行事といわれますが、現在では新暦の 7 月 15 日前後と 8 月 15 日（旧暦の 7 月 15 日の名残り）前後に各地で行なわれています。この 7 月 15 日というのは、中国の道教の亡魂祭にあたる（　41　）と、インド仏教の（　42　）の最終日に行なう人々の供養の日とがうまく重なり合って、中国で現在のような形が生まれ、日本に伝えられました。

41. ①上元（じょうげん）　②中元（ちゅうげん）　③下元（かげん）　④三元（さんげん）

42. ①布薩（ふさつ）　②倒懸（とうけん）　③卒哭（そっこく）　④夏安居（げあんご）

四十九日の仏事（追善供養）において、亡くなった人は中陰（ちゅういん）の 49 日間「冥途（めいど）の旅」をします。それは 7 日ごと 7 回、冥府において、生前の行ないの善悪を審判し、次に生まれ変わる世界を決定するという、たいへんな裁判です。もっともこうした考えは中国の（　43　）でつくられたものですが、古代インドでは死後 49 日間に 7 日ごと 7 回の追善供養をする風習があったといわれ、それがもとになっています。それとは別に仏教以前の『ヴェーダ』聖典には「ヤマ」といわれる、のちの閻魔大王が「死者の命運を裁く」という考えがありました。これが中国に伝わると（　44　）の俗信仰が加わって（　43　）となり、それによって四十九日は 7 人の審判官が、7 日ごとに 7 回の裁判を行なうことに発展しました。

43. ①盂蘭盆経　②十王信仰　③十三仏信仰　④地蔵十王経

44. ①道教　②儒教　③ヒンズー教　④仏教

改葬をする場合、市区町村長の許可を得なければなりません。墓埋法および墓埋法施行規則において、下記の通り、改葬を行なうための手続きが定められています。

- 現在の墳墓（墓地）の管理者から（　45　）を発行してもらう。

⬇

- 現在の墳墓（墓地）のある市区町村長に（　45　）などの必要書類を添えて改葬許可申請を行ない、（　46　）を発行してもらう。多くの市区町村では改葬先の（　47　）を必要書類と定めているので、（　47　）の添付も必要とされる。

⬇

- 現在の墳墓（墓地）の管理者に（　46　）を示して、遺骨を取り出す。

⬇

- 改葬先の墳墓（墓地）の管理者に（　46　）を示して、納骨する。

45. ①火葬証明書　②埋蔵証明書　③改葬許可証　④受入証明書

46. ①火葬証明書　②埋蔵証明書　③改葬許可証　④受入証明書

47. ①火葬証明書　②埋蔵証明書　③改葬許可証　④受入証明書

小叩き仕上げとは、両刃または片刃にて（　48　）程度の間隔（かんかく）で叩いていく工法のことをいい、石面を平らにする目的と、（　49　）を均等（きんとう）につける意味合いがあります。八枚ビシャンをかけた上に、小叩きで二回叩くことを「八枚二回叩き」と呼び、百枚ビシャンをかけた上に小叩きで二回叩くことを「百枚二回叩き」といいます。当然「百枚二回叩き」のほうが石の（　50　）が出て生地（きじ）が締（し）まります。

48. ①１ミリ　②２ミリ　③３ミリ　④４ミリ

49. ①ノミあと　②節理（せつり）　③片理（へんり）　④筋目（すじめ）

50. ①艶（つや）　②水分　③粘（ねば）り　④肌理（きめ）